

---

# 東北大学陸上競技部

## OB・OG通信

2015年No. 3 (2015. 7)

---

- ・北海道大学対東北大学定期戦(円山陸上競技場)  
…男女共に北海道大学に敗北
  - ・第99回 日本陸上競技選手権大会 (ビッグスワンスタジアム) に宮崎幸辰(3)が出場!!
  - ・2015 日本学生陸上競技個人選手権 (Shonan BMW スタジアム平塚) に田中直樹(M1)、  
宮間志帆(4)、宮崎幸辰(3)の三名が出場!!
- 

- |                     |          |
|---------------------|----------|
| ・北海道大学対東北大学定期戦      | 2～10ページ  |
| ・第99回日本陸上競技選手権ほか    | 10ページ    |
| ・七大学戦の展望            | 11～14ページ |
| ・七大学OB・OG懇親会のお知らせ   | 15ページ    |
| ・今後の予定              | 16ページ    |
| ・お詫びと訂正 (前号の誤りについて) | 16ページ    |
| ・編集後記               | 16ページ    |
| ・北大戦決勝記録一覧          | 18～19ページ |

初夏の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第76回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第28回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果や、第66回全国七大学陸上競技大会兼第26回全国七大学女子陸上競技大会の展望などをお伝えします。

### ◎北海道大学対東北大学定期戦 於 円山陸上競技場

今年の北海道大学対東北大学定期戦は北海道札幌市の円山競技場で行われました。幸い雨に降られることなく、また、遠く北海道の地でしたがOBの眞山さんが応援にいらっしゃいました。

男子は15連覇を逃し、21世紀に入って初の敗北となりました。女子も去年よりも得点を取ることができず、2位でした。部員一同この結果を真剣に受け止め、七大戦に向けて危機感をもって取り組んでまいりたいと思っております。

#### ★北大戦 結果

##### ・男子

	トラック	フィールド	総合
東北大学	57点	26点	83点
北海道大学	43点	54点	97点

##### ・女子

	トラック	フィールド	総合
東北大学	16点	12点	28点
北海道大学	29点	18点	47点

#### ☆トラック

##### 男子 100m

##### 2位 阿部耕大(3) 11"40 (-3.7)

スタートで隣に差をつけられてしまった。淡々と加速していき2位のまま50mを通過。そのまま隣との差を一定に保ち、最後に少し追いつくも2位。

##### 3位 藤井佳祐(2) 11"58 (-3.7)

スタートで周りに差をつけられ、50mの時点で5位あたり。そのままがむしゃらに前を追っていき80mで前に追い付く。そのまま意地で前をまくり3位でフィニッシュ。

##### 6位 櫻井直輝(3) 11"75 (-3.7)

スタートでは3位につけていたか。体を起こしてからうまく乗り切れず、後ろから追い抜かれていく厳しい展開。ラストは前に何とか食らいつくも中盤の差のまま6位でゴール。

##### 女子 100m

##### 3位 吉村梢(2) 13"69 (+1.5)

スタートはいつもよりできていたか。しかし4位で50mを通過。後半でいつも通りテンポアップ。向かい風の中、何とかフォームを維持し、ゴール手前で一人抜き3位。

##### 5位 久道瑛未(2) 14"23 (+1.5)

スタートは隣の北大と同じくらいで切れていたが、体を起こした際にうまく乗り切れず、一気に差が開いてしまった。後半何とか粘るもののその差を縮めることができず5位。

##### 6位 後藤文子(4) 14"71 (+1.5)

スタートで両隣においていかれてしまう厳しい展開。そのままうまく乗り切れず、差が広がっていき6位でフィニッシュ。

##### 男子 200m

##### 2位 阿部耕大(3) 22"79 (-1.8)

東北インカレと同様に前半をテンポよく通過。その時2位であったが、コーナー出口で後ろから一気に詰められる。しかし後続を振り切りそのまま2位でフィニッシュ。1位との差もラストで縮めたものの及ばなかった。

#### **5位 津島優希(2) 23"88 (-1.8)**

前半から攻めた走りをしてくれた。内側の北大には差をつけられたもののコーナー出口では4位とほぼ差がなかった。直線で体がバラバラになり、差をつけられる。最後、櫻井を振り切り5位。

#### **6位 櫻井直輝(3) 24"05 (-1.8)**

前半からうまく乗れていなかった印象。疲れからか動きがうまくかみ合わず、6位で出口を抜ける。ラスト津島を詰めるものの差し切れず6位。

### **男子 400m**

#### **2位 佐藤洋介(4) 50"15**

前半は大きなストライドでグングンと進む。150あたりから内から攻められ、コーナー入り口からやや動きがばらつき始め2位で直線へ。ラストは前との差を縮ませるものの2位でフィニッシュ。

#### **4位 矢川省吾(2) 50"15**

前半は周りとは比べやや抑え気味に入ったか。100から250までは大きく走っていたか。その後動きが固くなり、3位でコーナーを出るも、ラスト50mで外から刺され4位。

#### **5位 水戸部慶彦(2) 51"78**

前半をいつも以上に大きく走っていた。200の手前あたりから動きがばらつき始め、コーナーで周りに差を一気に広げられる。ラストを何とかまとめ5位。

### **女子 400m**

#### **2位 加藤かあら(3) 60"68**

前半から積極的に外の北大についていった。バックストレートで一時大きく差が開いたものの、じわじわ差を縮め、水濠から一気にテンポアップし、出口の時点ですぐ後ろについて2位。ラスト50mから差がついていき、同時に後ろから詰められるものの2位。

#### **3位 吉村梢(2) 61"13**

両隣の北大にやや先行したまま前半を走る。コーナーで外の選手に出られて4位での通過になった。ラストで一気にテンポを上げ、前を追う選手に食らいつく。一つ順位を上げ3位であった。

#### **6位 久道瑛未(2) 64"51**

前半から内の選手に攻められる厳しい展開となった。200mをテンポよく走ることができたが、コーナーで体のブレが目立ち始める。なかなか前との差を縮めることができず6位でフィニッシュ。

### **男子 110mH**

#### **2位 工藤知央(4) 15"83 (-1.9)**

スタートしてからの1台目をうまくとらえられず、前2人に大きく差をつけられる展開。後半に徐々にテンポアップしていき10台目にて2位に並ぶ。ラストを意地で振り切り2位。

#### **4位 佐藤弘隆(3) 16"33 (-1.9)**

1台目で浮いてしまい厳しいスタートとなった。6台目まで工藤とほぼ並んでいたものの、7,8台目でぶつけてしまいそのまま失速。後ろから攻められるも4位を死守。

#### **6位 楠木啓介(2) 16"54 (-1.9)**

ハードルを越えてからのふらつきが目立った。5位の選手とほぼ差のないまま淡々と越えていた。後半にややまくるものの前の選手をとらえることができず6位。

### **男子 400mH**

### 1位 佐藤弘隆(3) 56"15

前半からテンポよくリズムを刻んでいた。ハードリングが全体的に浮き気味であったためか、じわじわと内側の工藤に差をつけられる。8,9 台目あたりまで 2 位をつけており、10 台目手前で最後一気にテンポアップ。見事に優勝をかざった。

### 2位 工藤知央(4) 56"75

今日はずっと以上に走りとハードリングがキレキレであり、前半から一気に攻めていた。7 台目を越えた時点では断トツの 1 位。しかし 8 台目でハードルが合わず止まってしまい、つづく 9,10 台目でも歩数が合わず、10 台目で刺され 2 位でフィニッシュ。

### 4位 増田俊太郎(4) 57"18

自身のリズムを保ちながら前半を難なく走り 3 位をキープ。6 台目で体がぶれるものの 9 台目まで 3 位。10 台目手前で北大に一気に詰められ、そのまま刺されてしまい 4 位。

### 男子 4×100mR

#### 2位 東北大学 42"64

#### 藤井(2) - 櫻井(3) - 渡邊(2) - 阿部(3)

藤井 スタートは北大とほぼ同時。その後、自分の走りをし、後半で少し追いついたか。バトンでつまり、そこで北大と差が開いてしまった。

櫻井 バトンをもらい一気に加速する。得意の追い風の中、北大のエースに何とか食らいつき、前半はほぼ差をつけられなかったか。後半でじわじわ差をつけられたものの健闘した走りであった。バトンはやや詰まっていたが、減速はほぼなし。

渡邊 急遽走るようになったのだが、櫻井とのバトンを難なくこなす。前半でやや差が開いたが後半はテンポよく走れており、やや詰めることができたか、体がよく動いていた。バトンは丁度いいくらいか。

阿部 おおよそ 5,6m ほど北大との差があ

った。前半での差はイーブンのままであった。持ち前の後半のテンポからじわじわと差を縮めることはできていたが、前をとらえきれず 2 位。

### 女子 4×100mR

#### 2位 東北大学 51"86

#### 久道(2) - 吉村(2) - 渡邊(3) - 加藤(3)

久道 スタートがうまく決まり、グングンと加速することができた。後半で北大に一気に攻められるが何とか粘った。2 位でバトンを渡したが非常に詰まっていた。

吉村 その詰まったバトンから前半で北大に差をつけられてしまう。後半は何とか持ち直し、同じくらいか少し差を縮められたように思えた。テンポの良い見事な足さばきであった。三走へのバトンはうまく渡った。

渡邊 スタートがうまくいかなかったか、そこで北大と差がついてしまった。走りそのものは安定していたが、ラストでやや身体がぶれてしまったのもありなかなか差を縮められない。バトンそのものはうまくいった。

加藤 5m ほど離れた位置でバトンをもらう。コーナーを出てからの加速が良かったと思う。後半の足さばきも軽快であり、前との差をじわじわと縮めることができた。しかし前を追いつくことができず 2 位。

### 男子 4×400mR

#### 1位 東北大学 3'23"80

#### 水戸部(2) - 阿部(3) - 工藤(4) - 増田(4)

水戸部 400 の時よりややリラックスした模様。200 を超えたあたりから北大に差をつけられ始める。直線に入りピッチを上げるものの中盤での差をまくれず 2 位でバトンを渡す。

阿部 北大がそのまま一気に前に出たので、その後ろをつきながらテンポよく走る。水

濠から勝負を仕掛け、ラスト 100 で一気に抜き去った。5m ほどの差をつけて 1 位。

工藤 上手くバトンをもらい一気に加速していく。200m を軽快に通過するが 250 あたりから動きがぶれ始める。そこで勝負を仕掛けてきた北大に一気に迫られラスト 50m で抜かれる。何とか粘るもののそのまま 2 位でバトンを渡す。

増田 前半攻めて走り、北大にピタリとつく。バックストレートで抜きにかかった際に接触したのか北大がバトンを落とす。そのあとも気を緩めることなく走りつづけ、最後まで懸命に腕を振りながら走り、1 位でゴール。

#### 男子 800m

##### 1 位 西京毅(3)

セパレートから 5 位でオープンへ、バックストレートで一気に抜き去り先頭に出る。そのまま 1 位でゴール。1500 と 800 の二冠を達成した。

##### 2 位 佐藤宏夢(1)

セパレートから 3 位につける。ホームストレートで 2 位に浮上する。1 周目は 60" で通過。そのまま 3 位を突き放し、2 位でゴールした。

##### 佐藤洋介(4) DNS

#### 女子 800m

##### 3 位 宮間志帆(4) 2'28"15

スタートから勢いがなく、スピード練習不足の影響が露呈された。一周目から先頭と離れてしまう。3 位集団の混戦からラストで追い上げて順位を上げるも、良いところが無く北大の 2 人に敗れるという結果に終わった。

##### 4 位 井出桃愛(4) 2'28"66

最初の 200m を先頭に付いていくかたちで入ったが、400m 地点にかけてスピードを落としてしまった。前集団に 離されすぎ

ることなく付いて行き、500~700m にかけてスピードが上がり順位を上げたが、残り 100m からは思うように足が動かず最後に抜かされて 4 位でフィニッシュした。

##### 6 位 加藤かあら(3) 2'34"69

前半から疲れが見え、1 周目は 2 番手につけるが 2 周目に入り前との差が開く。そのまま 600m を通過するがスパートをかけることが出来ず、減速して他の選手に追い抜かれゴール

#### 男子 1500m

##### 1 位 西京毅(3) 4'10"93

スタートから 2 番手で走る。入りの 400 は 63" で通過する。そのまま 2 番手で走るが先頭の朝比奈に離され、800m 地点では 4 番手に落ちるが 1000 で 2 番手に浮上。ラスト 400 で朝比奈を追い上げ、ラスト 150 で先頭に躍り出て 1 位でフィニッシュする。

##### 4 位 大野慎也(4) 4'15"97

スタート時点では 4 位。65" くらいで 400 を通過する。800 は 3 番手。ラスト 300 の時点で 4 位にまた落ちるが。そこから追い上げて 1 度 3 番手になる。しかし、ラスト 10m で抜かれてしまい 4 位でゴール。

##### 5 位 朝比奈祐弥(4) 4'16"59

スタートで先頭に出て 1 周目を 62" で通過し、2 位をつきはなす。800 は 2'07"。そのままラスト 200 まで 1 位を維持するがそこから抜かれて惜しくも 5 位という結果におわる。

#### 男子 3000mSC

##### 1 位 高橋仙一(3) 9'55"59

##### 2 位 碓井将也(4) 10'02"91

##### 3 位 南雲信之介(3) 10'10"04

南雲が引っ張り、5 人集団でレースを進める。スタート時点では南雲、高橋、碓井、北大の 2 人の順番。800m で高橋が先頭に出て引っ張る。1000m 地点では高橋が単

独で走る。2000m 地点で全体的にばらける。高橋、碓井、南雲の順でそれぞれの差が 30m ほどあいたままラスト 1 周に。高橋は余裕の 1 位。それに続いて碓井が 2 位、南雲も危なげなく 3 位でゴールする。全体的にもっと走れそうな印象。南雲は練習に比べてレースは走れないので本番の勝負強さがほしい。高橋、碓井は練習を重ねてもっと地力、走力をつけてほしいといったところだろうか。

#### 女子 3000m

- 1 位 宮間志帆(4) 10'35"51  
4 位 飯田夏生(1) 11'14"54  
5 位 塩谷美菜子(4) 11'18"34

スタートから宮間が先頭を引っ張り、2 周目で先頭が入れ替わるもののくっついていき入りの 1000m は 3'27" で入る。第 2 集団を塩谷が引っ張りそれに飯田もついていき入りの 1000m を 3'42" で通過する。2000m 通過後宮間が先頭に再びたち、2400m 地点で 2 番手と 3 秒差をつくる。塩谷、飯田は 2000m 通過後 3 番手から引き離され、2 人で並走する。ラスト 1 周で宮間がスパートをかけて後方を引き離し 1 位でフィニッシュ。粘って塩谷についていた飯田は残り 200m で塩谷を抜かし、4 位でフィニッシュ。塩谷は 5 位でゴールした。

#### 男子 5000m

- 1 位 本間涼介(3) 15'21"38  
2 位 出口武志(3) 15'26"86  
6 位 本田雄生(3) 16'39"41

1000m まで出口を先頭に 6 人が一団となって走り、入りの 1000 を 3'05" で通過する。そこから出口がペースを上げ、集団は縦長に。本田はけがをしてしまったらしく後方で自分のペースで走る。1000~2000 のタイムは 3'01" とかなりペースアップする

が 2000~4000 はキロ 3'08" とかなりペースダウンしてしまう。本間が 4000 でペースを大幅にあげ、出口がそれに反応し、2 人でレースを進める。そのまま本間がスパートをかけるが出口はついていけず、本間が単独トップでフィニッシュ。出口は 2 番手でゴールする。本田は後方で単独走。つらい展開となった。

#### ☆フィールド

##### 男子走高跳

- 3 位 佐藤弘隆(3) 1m80

1 本目はリラックスした助走を意識できたがその分スピードが出ず、遠くからの踏切になってしまい、ピークが合わずに落としてしまった。二本目は踏切だけを意識して強引に体を引き上げ無理やりクリアした。3 本とも助走と踏切が繋がらず、踏切が全く合わない状態。体が浮く感覚もなかった。

- 3 位 小林歩夢(1) 1m80

調子が悪かったので 1m70 から跳ぶ。1m70、1m75、1m80 は 1 回目で成功したが、どの跳躍も助走が上手く決まらず、踏み切りで身体を持っていく感じだった。1m85 では体が上がりきらず 3 回失敗してしまった。今大会では、満足のいく跳躍はできなかった。次の大会までに助走を重点的に練習することが必要である。

- 6 位 藤井佳祐(2) 1m80

1、2 本目では踏み切りがうまくいかず、突っ込んでしまい高さが出ずに失敗してしまった。3 本目はあまり突っ込んではいなかったが、疲れのせいかスピードに乗ることができず少し流れてしまい失敗した。今回は他種目と重なってまい、いつもの助走速度を出すことができなかった。今後、競技の重複にも対応できる体力をつけ、いつでも助走速度が落ちないようにしたい。

##### 女子走高跳

## 1位 中村真璃子(1) 1m48

135cm,140cm は1回目でクリア。145cm は3回目でクリア。1、2本目の反省から第2マークを0.5足分前に出して今までと同じように助走するように心がけた。148 cm は3回目でクリア。今までで一番内傾がかけられたのが良かった。

跳べなかったのは集中が途切れたのが原因である。本当にもったいなかった。

## 2位 渡邊朝美(3) 1m45

試技は135からスタートし、40、45と1回目でクリア。しかしどれも踏み切りが甘く高さが出ない跳躍であった。148も改善はできず、失敗。七大戦に向けて、きちんと練習しなければいけない。

## 6位 後藤文子(4) 1m25

1m10から5センチ刻みでスタート。1m20までは1回で決め続ける。1m25は3回目で成功。1m30への挑戦は1回目踏切が近くて頂点が合わずファール。2、3回目は高さが生まれずファール。対抗戦に出るからにはスタート跳躍と、高跳に至るまでのコンディションをある程度シミュレートして臨むべきであった。

### 男子棒高跳

## 1位 高橋拓実(3) 4m80

3週間ぶりの跳躍となり、調子も上がらず練習もかねて4m50からスタート。ポールが柔らかかったがうまくあわせて1本目でクリア。4m60も1本目でクリアし、1位が確定。バーは4m80へ上がる。1本目は、流れはよかったが腰が上がりきらず失敗。それでも2本目高さのある跳躍でクリア。バーは自己ベストとなる4m90。1本目は高さが足りず失敗。2本目はスピードのある助走だったが踏み切りが近すぎて手をすべらせてしまった。3本目も高さが足りず失敗で競技終了。またしてもベストタイに留まり記録更新は出来なかったが、普段

より短いポールでこの記録を残せたことは成果といえる。大会新。

## 4位 工藤航平(3) 3m60

1ヶ月ぶりの跳躍となったが、あまり深く考えすぎずに跳ぶことができ、むしろいつもより良い跳躍となった。助走も安定してきたのが大きい。空中動作は相変わらずだったので七大戦は練習をして臨みたい。

### 男子走幅跳

## 4位 今泉裕真(1) 6m37(+2.2)

全体的にスピードが足りなかった。また、踏切でブレーキをかけすぎたり、腰が低かったりする悪い癖で高さのある跳躍ができなかった。ほとんどの跳躍が6m20~30で伸び悩んだ。

## 5位 大塚祐貴(2) 6m24(+2.7)

試合中に跳躍を修正する技術がないのが記録が低迷した原因だった。また自分で踏み切りに行ったことで持ち味の大きな反発をもらえず記録がのびなかった。跳躍の経験不足が目立った試合となった。

## 6位 佐藤勝成(2) 5m47(+1.0)

足首の痛みがある中の大会で、足合わせの時点からだいぶ足が痛そうであった。1~3本目通して足の痛みで助走も全然スピードに乗れず、優しく足を置くような踏切しかできなかった。4本目以降は棄権した。今大会で改善すべき点も見つかったが、まずは怪我を治すことが最優先である。

### 女子走幅跳

## 2位 渡邊朝美(3) 5m02(+1.0)

良い追い風が吹くなかの競技。一本目に4m95を残し、本数を重ねるごとに少しずつ改善点していった。最終記録は2本目の5m02であったが、全体的に同じ水準の記録であり、まとまった展開であった。今季は北大戦でようやく5mを跳ぶというスロースタートだが、ここからあげていきたい。

#### 4位 後藤文子(4) 4m68(+0.6)

追い風が強い中であつたが、総じて踏切を合わせることができた。反省としては1本目でファールしてしまい、2本目は守りの跳躍になってしまったこと。踏切でまだ反発をもらいきれず、高さが出ていないことが課題だ。今回は追い風のおかげで、助走にある程度スピードが出ていたものの、まだまだ不足感を感じる。

#### 6位 中村真璃子(1) 4m40(+0.3)

初めて公式戦で走幅跳に出場したので、先ず記録を残そうと思ひながら跳躍した。全体的に少しずつ記録を伸ばすことができ、先輩方のアドバイスに助けられて6本全て記録を残すことができた。練習不足なのは分かっていたのが、6位はそれでも悔しかった。次は4m後半の記録を出せるように練習に取り組んでいきたい。

### 男子三段跳

#### 1位 須藤海(3) 13m90 (+1.2)

右足踵を痛めていた状態での出場となつた。痛みと闘いながらの競技となる。6本目は痛みが限界に来ていたが、この時点で2位。北大にトップを譲るわけにはいかないので、拍手を求めギャラリーの力を借りて跳躍。何とか1位をもぎ取つたが無様な記録となつた。七大戦までに確実に怪我を治療し、この春の14m60を軽く超えるビッグジャンプをできるように回復したい。

#### 4位 今泉裕真(1) 13m49 (+1.6)

高校1年次以来の三段跳だつた。1~5本目はホップで高く跳びすぎてステップで潰れてしまい13m台に届かなかつた。6本目はステップが今までより潰れずに、スムーズにジャンプの動作に入れたので記録を大幅にのばし13m49だつた。しかし、まだまだステップでのタメがないのでステップの踏切姿勢を直して、七大では14mを出す。

#### 5位 藤井佳祐(2) 13m44 (+1.4)

三段跳は春季記録会以来。1本目はファールを恐れ板より手前で踏み切つてしまった、またステップで潰れたのも悔やまれる。2本目以降は他の競技との兼ね合いで助走スピードが落ちてしまう。今回、全て13は超えたものの板を全く踏むことができない悪い癖も治っていなかつた。その点を治し、常に同じ速度で走れるように体力をつけマックススピードをあげたいと思う。

### 男子砲丸投

#### 2位 大塚一途(1) 10m88

少し肌寒い気温の中での競技。1投目はひとまず決勝進出を確定するために記録を残したが、続く2投目、3投目が問題であつた。ファールを恐れてフォームが小さくまとまつてしまった。その後の4投目では少し調子が戻つたもののベストの更新には及ばず、不本意な結果となつた。フォームの中でグライドの部分と投げの部分との間に乖離が見られていたようであつたので、修正して七大戦に挑みたい。

#### 5位 佐藤雄也(3) 9m64

一投目はファールしないようにするため、少しばかりグライドのスピードを遅くして投げた。その分、身体を大きく使えなかつたが、砲丸をしっかりと押し出すことが出来た。三投目では自分の望むようなテンポでグライドが出来たが、後ろに下がつた際に足止めに踵が乗つてしまいファールに。試技全体において、左腕が上手く使えておらず、その結果、姿勢が左側に倒れていたりしたので、今後の課題としたい。

#### 6位 箕輪純尚(3) 9m11

練習投擲での立ち投げではうまく砲丸を押せた感覚があり、調子は比較的良いように感じられた。だが、グライドが一切かみ合わず、最悪な結果であつた。東北ICでも同じような状態を経験したがそこから全く成長できなかった。今年は自分が点を取ら



なければ、とっていたので、非常に申し訳ないと感じている。七大戦ではしっかりと活躍したい。

### **女子砲丸投**

#### **4位 渡邊朝美(3) 8m61**

前半は他競技と重なっての試技となった。一本目は大きく右にそれてファール。その後も方向が定まらず暴投したり、高さも出なかつたりと、低調な展開であった。砲丸を押しきれないまま終わり結局 **8 m61** がベスト記録となった。七大では得点を落とせない種目であるので、時間を見つけてもっと砲丸に触れていきたい。

#### **5位 青木千景(3) 8m10**

公式練習では砲丸に力が伝わっていたが、1 投目は、グライドのスピードが遅く勢いが感じられない投擲であった。2、3 投目で流れを変えようとするも砲丸に力が伝わらず **7m** 台の投げが続いた。4 投目に入りグライドのキレがでて **8m** に届き、5 投目もその勢いに乗るが、6 投目で崩れてしまいその流れに乗れなかった。全体的に投げ方が安定しておらず、強みを活かしていない試合であった。7 大戦までに点数に貢献できるよう、練習を積み重ねたい。

#### **6位 吉田歩(3) 6m74**

初めての投擲種目出場。最後まで押し切れず全体的に **6 m** 半ばの投擲が続いた。今はフォームも定まらず筋力も足りていない状態である。今後に期待したい。

### **男子円盤投**

#### **4位 須藤海(3) 30m26**

練習投擲では 2 本ともネットに引っかかったため、1 投目、投擲スタート位置を少しずらし、最後まで振り切る意識で投げた。また、ターンの初めはゆっくりと回転し、加速を徐々に感じるように投げたところ、自己ベストに近い記録を出せた。

2 投目以降、回転速度を上げようとしたり、重心をしっかりと進ませようとしたりしたが、いずれもバランスがくずれてしまい、記録を伸ばすことはできなかった。

#### **5位 大塚一途(1) 29m99**

思わぬ収穫があった大会であった。1 から 4 投目までは東北インカレのときから代わり映えのない投げであったが、右足で蹴り上げて軌道を上げることを意識した 5 投目で自己ベストの **29m99** をマークした。その後の 6 投目では軌道を上げすぎてしまいショートになったが、今後の大会で大きく記録を伸ばすことへの期待が持てるような何かを掴むことができた大会となった。

#### **6位 佐藤雄也(3) 25m80**

円盤への指の掛け方と地面を蹴ることを意識して試技を行った。一投目は指が上手く掛からず円盤がぶれてしまったが、次の二投目では一投目の失敗を修正でき、目標としていた **25m** を投げることができた。3 つ目の種目ということもあり、脚に疲労が溜まってきていて、以後の試技では記録が振るわなかった。立ち投げでの目標の記録が出せたので、今後は回転して投げる練習を試みようと思う。

### **男子ハンマー投**

#### **1位 酒井利晃(M1) 34m48**

一投目はフィニッシュ後に足が出てしまいファール。二投目、ターンは安定していたものの、勢いが無い。三投目は腰を落としたターンを行えたためターン、フィニッシュ共に力強い動きができ、この日一番の記録をだす。三投目までに一位となった。四、五投目はターンの加速ができず、六投目は力みすぎて切り返しが遅れ、そのためハンマーが左にそれてファール。一位を取ることは出来たが記録は PB よりも **4m** 以上短くあまり満足の行くものではなかった。

#### **2位 野尻英志(1) 33m07**

新規格での二戦目。体の調子は良かったものの、公式練習からターンが決まらなかった。一投目二投目はターンが決まらず、三投目はベストこそ出たもののフィニッシュが浮いた投擲となった。四投目以降満足のいくフォームで投げられたものはなかった。結局 2 位が拾えたのは北大側の選手の不調のおかげであり、自分の実力で勝ち取ったものでないのが悔しい。目標の 40m が出せるように、フォームの安定を主眼に置いて、七大戦に向けて練習していきたい。

**6 位 箕輪純尚(3) 27m79**

初めてハンマー投で 6 回の試技を行った。1 投目は少し緊張したのか、動きが硬くなってしまった。2 投目以降、落ち着いて回転することを重視し、その点は実践できたのでよかったと思うし結果からも安定した投擲が出来たことも感じられる。今後の課題は回転スピードを上げることである。練習を積むことで少しでもスピードをあげられるようにし、自己ベストを大きく更新したい。

**男子やり投**

**3 位 工藤航平(3) 47m07**

全体を通じて低調な記録に終わった。今シーズンは脇腹や腰等の痛みの中での試合が続いたため、比較的回復した今でも投げのリズムやタイミングずれている感じがする。実戦に近い練習を行い七大戦までには良い記録を残せるようにしたい。

**5 位 佐藤文哉(3) 36m55**

佐藤はオープンでの出場予定であったが、正選手が規定人数に達しなかったため繰り上げでの出場となった。

やり投げは初出場であり、準備はしていたようだがやはり本職の選手には遠く及ばなかった。

**6 位 木曾真吾(1) 32m03**

6 投通してラストクロスが決まらなかった。1~3 投目は最後の投げの局面での上半身と下半身のズレが目立ち、4、5 投目は距離を意識しすぎてやりに助走の勢いを伝えられなかった。6 投目に改善がみられたものの記録は伸ばせずに終了した。

**◎日本学生陸上競技個人選手権、日本陸上競技選手権大会**

6 月に行われた個人選手権に 3 名、日本選手権に 1 名の選手が出場しました。また 6 月から国体予選が各都道府県で始まっております。入賞した選手の結果を紹介します。

**・日本学生陸上競技個人選手権(6/12~14) …神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚…**

種目	氏名 (学年)	順位	記録
男子 100m 予選	宮崎 幸辰(3)	6 着	10"86(+0.9)
男子 200m 予選	宮崎 幸辰(3)	5 着	21"90(+2.3)
男子 3000mSC	田中 直樹(M1)	14 位	9'26"41
女子 3000mSC	宮間 志帆(4)	32 位	11'37"89

**・第 99 回 日本陸上競技選手権大会(6/26~28) …新潟・ビッグスワンスタジアム…**

種目	氏名 (学年)	順位	記録
男子 200m 予選	宮崎 幸辰(3)	5 着	21"47(+1.4)

## ◎七大戦の展望 in 2016

去年度の中止から、ますます待ち遠しくなりました七大戦の季節がやってきました。今年の会場は宮城県の仙台市陸上競技場です。男女共に総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

主将、女子主将による OB の皆さんへ向けた意気込みと各 PC の視点から見た今年の七大戦の展望を掲載致します。(出場選手に関しましては変更の可能性があります。)

### ◆主将の意気込み …菅原大志…

七大戦がおよそ1か月後に迫ってきました。今年は地元仙台での開催ということもあり、運営を含めた七大戦の成功を目指して、現在各役職部員は準備に東奔西走しております。今年度の陸上部の目標は七大戦優勝であります。去年度の七大戦が台風により中止になって当時の1年生が七大戦の雰囲気を感じられないまま進級したこともあり、七大戦への機運が部活全体でどこまで高めていけるのか非常に心配なところでありました。今年度、すでに大きな対抗戦として東北インカレ・北大戦を経験しました。東北インカレでの雰囲気、北大戦での雰囲気は陸上部が目指しているそれとは程遠く、1人1人の活躍はあったものの選手の気持ちを盛り上げ、部全体で1点でももぎ取ろうとする姿勢は見られませんでした。特に北大戦での敗北は、主力を欠いた状態でのエントリーに加え、多くの選手が思ったように実力が出し切れないまま競技が終わってしまったこと、そして選手に対する応援の少なさが目立ちました。対して北海道大学は、主力選手が学部生・院生に関係なくエントリーし、何が何でも得点をもぎ取り東北大学を負かそうとする姿勢が部全体に浸透していたと思います。これらを通して、部全体としての対抗戦に対する意識の低さ、他部員に対する無関心さが浮き彫りになりました。

今年度の東北大学は、各種目で得点を狙えるエースの選手はいますが、それを追う選手があまり伸びてきていない状況にあります。また、エース選手であってもこれまでの対抗戦では思ったような戦い方ができず惜しいところで得点を逃す場面が多くありました。その理由を選手個人に求めることもできますが、選手のあと1点が欲しい気持ち、チームのために戦える気持ちというのは普段の陸上競技部が魅力的な集団ならば自然と醸成されていくものでしょう。練習においても大会においてもエースだけでなく、文字通り部員全員の力が必要となります。七大戦は、オープン・対抗関係なく全員が「燃える」大会だと改めて感じています。1人1人がベストを尽くし、それが周りに力を与える。そういった雰囲気によって、エースにおんぶにだっこするのではなく、全員の力で流れを東北大学に引き寄せることができると考えています。

7年ぶりの地元仙台での七大戦を成功させるべく、部員一丸となって準備や練習に勤しんでいますので、OB・OGの皆様、どうか熱い応援をよろしく願いいたします。

### ◆女子主将の意気込み …宮間志帆…

同点であったものの、優勝数で敗れて2位だった一昨年。台風直撃により、まさかの中止となった昨年。そして今年もいよいよ七大戦の季節がやって来ました。

チーム状況としては、北大戦では十数年ぶりに男女ともに敗れるという惨めな結果でした。しかしこのままではいけないという危機感を持たれた機会だと捉え、いっそうの努力を

しなければならないと思っています。

他大のレベル向上は顕著で、簡単なことで無いことはもちろんですが、今年も女子チームの目標は七大戦優勝です。学部最高学年の私たち4年生は、男子の総合優勝を目にした最後の学年です。また、3年生以上は、同点ながら優勝数で敗れるという屈辱を一昨年経験しました。しかし2年生以下は七大戦をまだ知りません。七大戦は偉大な先輩方が築き上げてきた伝統的な大会。先輩が成し遂げられなかった悲願の初優勝、それを私たちが成し遂げて、このチームからまた新たな伝統を作っていきたい。そして後輩たちに継承して欲しい。そう願っています。何はともあれ絶対優勝したい。そのためには精いっぱい努力が必須です。みんながこのチームで優勝したい、そう思えるチームになるようにベストを尽くします。

東北大学が主管ということもあり、みんなで力を合わせて運営して、優勝して、いつも応援してくださるOB・OGの皆様とともに喜びを分かち合い、素晴らしい大会にしたいと思っています。応援どうぞよろしくお願い致します。

#### ◆短距離パートの展望

- 100m、200m、400m、  
400mR、1600mR

関西、関東の大学を中心に七大での短距離のレベルは年を経る毎に増してきています。それに対し、我が短距離パートでは卒業してしまった主力選手の穴を埋めることができず、年々戦力がダウンしてきました。ここ最近の対抗戦では点を取れない競技も出てきており、短距離パートとしては敗北を喫してしまいます。

以上のことから、七大戦は非常に厳しい戦いが展開されると予想できます。このような状況下でいかにいい勝負ができるかは、何人が決勝ラウンドに進出するか、これに尽きます。鍵は長年の課題である、この複数決勝進出の達成です。この課題が大いに改善されれば、自ずと結果がついてきます。

皆さんにご覧頂きたいのは、エースだけではなく他の出場者の成長です。対抗戦は一人が勝っても意味がありません。決勝に多く進出して、点をもぎ取っていくのが醍醐味でしょう。全員が勝ちを狙いにいく熱い戦いを展開してみせます。

#### ◆ハードルパートの展望

- 110mH、400mH

110mHには今シーズン初めから調子が良く部記録の期待のかかる工藤(知)、今シーズン調子の良い佐藤(弘)、上り調子でまだまだ未知数の楠木が出場する。

400mHではレベルの高い正選手争いが繰り広げられていて、競争による相乗効果と複数人の入賞が期待できる。メンバー的にも競技力的にも勢いのあるハードルパートでチームの勢いをつけたい。

#### ◆中距離パートの展望

- 800m

昨年と比較すると学内の水準は上がってきてはいるが得点できるレベルを考えると一人しか届いていない。今年は新生が多く、3番手以降は2'00周辺に新生を合わせ何人もいる状況である。七大本番の枠を争いこれからも練習で高め合い闘っていく。

- 1500m

記録会で今出せる力を出し切ることができても、対抗戦の本番でその力が出せる選手がいない。持っている力を出し切れないと得点に絡む走りはできないと考える。この課題をクリアすることができればレベル

の高い七大戦という場でより上のタイムを狙うことができるだろう。

800m, 1500m 共に点を狙っていきたい。応援よろしくをお願いします。

#### ◆長距離パートの展望

○男子

##### ・5000m

例年、七大の5000mはレベルが東北インカレよりも高く、特に京大や東大には関東の強豪校の選手をも脅かすような実力ある選手がいる。しかし、こちらもハイペースなレースに対応すべく、昨年よりも質を高めた練習を行ってきた。2007年以降、5000mで得点できていないのが現状である。しかし、調子が合えば3人とも得点できる実力はある。今年こそは点を取り、部に貢献したい。

##### ・3000mSC

3000mSCは最初のトラック種目となり、流れを作る点では重要な位置づけになる。しかし、各選手の記録は他大に一步遅れをとっているのが事実。それでも各選手は復調の兆しが見えたり、一段階高いレベルで練習に取り組めるようになったりと、期待が持てる。得点に絡めるように調整していく。

○女子

##### ・800m

今季の記録をみると800mで得点するのはかなり厳しい状況である。しかし、東北大学の800m勢は全員昨年度より記録を伸ばしており、ここからの伸びも期待できる。番狂わせで1点でも得点し、女子チームの勢いをつけたいところである。

##### ・3000m

3000mほどの大学も飛び抜けた選手はおらず、混戦が予想される。今季復調してきた宮間(4)は上位入賞、あわよくば優勝を目指せる位置にいる。チーム内での正選手

争いも激しく、層の暑さはここ数年で一番といえるだろう。レース展開次第では複数得点も期待できる。

#### ◆競歩パートの展望

##### ・男子5000mW

今年度から新しく対抗種目となりました。一日目のOPと同時スタートということでトラック種目最初の対抗戦になります。そのため二日目の流れを作る重要なレースになると思われます。しかし、他大学には非常に力のある選手がいるため、決して入賞は容易ではありません。けれども、六月から5000mWに焦点を当てた練習を積んできていて、さらに競歩パートが発足したのがつい最近であることもあり、現在の実力は未知数です。

競歩パートとして初めての七大戦。練習で培った「歩き」を本番にぶつけて、二日目に良い流れを持っていくことを期待します。

#### ◆跳躍パートの展望

七大戦の跳躍競技におけるレベルは年を追うごとに上がっており、東北インカレと同程度かそれよりも高い種目が見受けられる。そのような種目で得点を獲得するには、各選手がPBの記録を出さなければ厳しいだろう。しかし、走高跳、棒高跳では全体的なレベルは例年通りで、一人分の表彰台を獲得することは堅く、二人登ることも十分可能であろう。

○男子

##### ・走幅跳

阪大の渡辺が7m中盤と飛び抜けている。東北大に6m60~80を跳ぶ選手が4、5人居て正選手争いが激しい。一年の高橋が6m80、田中が6m70、大塚、今泉が6m60の記録を持っている。本戦の8ラインは6m60ほどか。三人全員の入賞を目指す。

### ・三段跳

阪大の渡辺、東大の吉田が 15m 前後の記録を持っており二強。東北大は須藤が 14m 中盤、藤井、今泉が 13m 中盤の記録を持っている。8 ラインは 14m フラットほど。表彰台を目指すには 14m 後半の跳躍は欲しい。藤井は今シーズンポテンシャルを發揮できない試合が多く、本戦では期待が持てる。今泉は勢いがあり本戦では一本大きな跳躍をすれば十分入賞を狙える。

### ・走高跳

東大の福永が 2m06 とダントツ。東北大は田中が 1m97、藤井が 1m94、小林が 1m92 の記録を持っておりハイレベル。表彰台を狙いつつ、確実な入賞をものにしたい。

### ・棒高跳

東北大の三年高橋が 4m80、一年高橋が高校時代のベストが 4m90 と非常に期待ができる種目である。他大の選手のベスト記録が 4m60 なので、表彰台 1、2 も十分狙える。工藤も 4m を越えるポテンシャルは十分秘めている。是非とも注目されたい。

○女子

### ・走幅跳

阪大の今川、京大の金澤、東北大の渡邊の三強か。5 メートルラインが入賞の分かれ目となりそう。渡邊は一昨年度三位に入賞しており期待が持てる。後藤もベスト跳躍ができれば十分入賞を狙える位置である。

### ・走高跳

東北大は一昨年度の優勝者渡邊に加え、期待の新人エース中村が高校ベスト 1m61 を持っており非常に期待ができる。男子棒高跳に続き表彰台 1、2 を狙える種目である。ここで大きく多大との差を広げたい。

## ◆投擲パートの展望

○男子

### ・砲丸投

楠(1)、大塚(1)にとっては初めての七大戦となるが、二人は十分に得点を狙える。優勝には最低でも 12m、得点には 10m 後半は必要だが、出場する 3 人全員の得点獲得を目指す。

### ・円盤投

この種目も楠(1)の活躍に期待したい。また、例年よりも円盤投のレベルは低いと思われるので、北大戦で PB を大きく更新した大塚(1)や 3 年となった佐藤(3)の意地にも期待したい。

### ・ハンマー投

野尻(1)が順調に記録を伸ばしている。目標としている 40m を投げることが出来れば優勝も見えてくる。箕輪(3)は 20m 後半で安定してしまっているが、七大戦では大きく記録を伸ばし、最低でも得点に絡んでもらいたい。

### ・やり投

今季出遅れていた工藤(3)が復調してきた。楠(1)とともに 50m 半ば～後半の投げを地元仙台で見せてもらいたい。今年もやり投のレベルは高いが、二人そろって得点を取る姿が見たい。

○女子

### ・砲丸投

昨季、9m89 を投げ PB を大幅に更新した渡邊(3)に大いに期待。今季はまだ 8m 台の記録にとどまっているが、しっかり投げ込んで七大戦には合わせてくるだろう。青木(3)は出遅れているが、記録を伸ばして得点に絡んでくれることを願う。

## ◎七大学 OB・OG 懇親会のお知らせ

三秀会会員各位

三秀会会長 藤田 文夫

### 2015 年全国七大学対校陸上競技大会 OB・OG 交歓会のご案内

拝啓

初夏の候、三秀会会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年の全国七大学対校陸上競技大会は東北大学が主管します。競技場は、仙台市陸上競技場(宮城野原)、日程は、8月1日(土)にオープン競技、8月2日(日)が本大会です。本大会は午前9時開会式、午前9時30分競技開始(予定)です。仙台開催の記念の大会に多くの会員の皆様にご参加いただきますよう、宜しくお願いいたします。

つきましては、前日の8月1日夕刻に恒例の OB・OG 交歓会を下記の要領で開催します。かつてのライバルとの旧交を温め、翌日の本大会応援の英気を養いたいと思います。できるだけ多くの参加をお待ち申し上げます。

敬具

#### 記

1. 日時 2015年8月1日(土) 午後6時～8時
2. 場所 仙台国際ホテル <http://www.tobu-skh.co.jp/>  
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-6-1  
TEL 022-268-1111, FAX 022-268-1113  
JR 仙台駅より徒歩5分  
地下鉄仙台駅南2出口より徒歩4分  
仙台駅周辺からタクシーで基本料金以内
3. 会費 6,000円/一人
4. 出席の連絡

7月26(日)までに、下記のメールアドレスもしくは電話番号に、ご卒業年度とお名前をご連絡いただきますよう宜しくお願いいたします。

(連絡先)東北大学陸上競技部監督 吉田真人

E-mail: [masato@riec.tohoku.ac.jp](mailto:masato@riec.tohoku.ac.jp),

Tel: 090-2027-7681



### ◎今後の予定

- ・7月18～19日 第66回東北地区大学総合体育大会（福島・みんなのスタジアム）
- ・8月1～2日 七大戦 …仙台市陸上競技場（仙台）
- ・8月8～9日 北日本 IC …岩手県営運動公園（盛岡）
- ・9月11～13日 全日本 IC …長居陸上競技場（大阪）
- ・9月23日 第47回全日本大学駅伝東北地区予選会  
兼 第33回全女駅伝東北地区予選会 …北上総合運動公園（北上）

### ◎お詫びと訂正

前号のOB通信の表紙に「男子3000mSC 田中(M1)、男子10000m本間(3)、女子3000mSC 宮間(4)の3名が全日本インカレ出場権を獲得!!」とありましたが、宮間(4)が出場権を獲得したのは全日本インカレではなく日本学生陸上競技個人選手権でした。正しくは「男子3000mSC 田中(M1)、男子10000m本間(3)の2名」となります。ご迷惑をおかけした関係各位に深くお詫び申し上げます。

### ◎編集後記

北大戦が終わり、いよいよ年間最大行事ともいえる七大戦が迫ってまいりました。今年は北大戦で勝つことができず不安がないとは言えませんが、主管校として、そして去年中止になった分、その気持ちを思い切りぶつけて部員全員で勝ちに行きたいと考えております。OBの皆様も東北大学にたくさんのご声援を、よろしく願いいたします。

文責 副務 出口武志

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

[hukumu\\_tohoku\\_ob2sin@yahoo.co.jp](mailto:hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp)



・男子

種目	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位		6 位	
100m -3.7	堤 亘平 北大	11"24	阿部 耕大東 北大	11"40	本村 新 北大	11"58	藤井 佳祐 東北大	11"58	渡辺 典仁 北大	11"66	櫻井 直輝 東北大	11"75
200m -1.8	堤 亘平 北大	22"47	阿部 耕大 東北大	22"79	本村 新 北大	23"09	永井 慧 北大	23"51	津嶋 優希 東北大	23"88	櫻井 直輝 東北大	24"05
400m	姫松 裕志 北大	49"90	佐藤 洋介 東北大	50"15	石坂 優人 北大	50"90	矢川 省吾 東北大	51"35	水戸部 慶彦 東北大	51"78	大津山 建 北大	52"68
800m	西京 毅 東北大	1'59"13	佐藤 宏夢 東北大	1'59"95	高橋 大道 北大	2'01"82	若杉 宙泳 北大	2'02"96	加藤 芳規 北大	2'05"63	佐藤 洋介 東北大	DNS
1500m	西京 毅 東北大	4'10"93	松井 稜 北大	4'15"25	土橋 晋也 北大	4'15"89	大野 慎也 東北大	4'15"97	朝比奈 祐弥 東北大	4'16"59	國米 裕介 北大	4'26"44
5000m	本間 涼介 東北大	15'21"38	出口 武志 東北大	15'26"86	土橋 晋也 北大	15'36"17	國米 裕介 北大	16'13"71	東郷 佑樹 北大	16'32"31	本田 雄生 東北大	16'39"41
110mH -1.9	鈴木 久崇 北大	15"62	工藤 知央 東北大	15"83	西田 寛太朗 北大	16"05	佐藤 弘隆 東北大	16"33	酒井 義岳 北大	16"44	楠木 啓介 東北大	16"54
400mH	佐藤 弘隆 東北大	56"11	工藤 知央 東北大	56"75	石坂 優人 北大	57"06	増田 俊太郎 東北大	57"18	大津山 建 北大	1'00"97	長野 晃大 北大	1'06"06
3000mSC	高橋 仙一 東北大	9'55"59	碓井 将也 東北大	10'02"91	南雲 信之介 東北大	10'10"04	堀崎 裕史 北大	10'16"76	中川 岳士 北大	10'26"03	小林 ひかる 北大	10'37"41

4×100mR	北海道大学 42"20 渡辺・堤・本村・永井		東北大学 42"64 藤井・櫻井・渡邊・阿部									
4×400mR	東北大 3'23"80 水戸部・阿部・工藤・増田		北海道大学   3'34"81 本村・堤・鈴木・石坂									
走高跳	菅井 徹人 北大	1m93	下田 和樹 北大	1m90	佐藤 弘隆 東北大	1m80 ※	小林 歩夢 東北大	1m80 ※	西田 寛太朗 北大	1m80 ※	藤井 佳祐 東北大	1m80
棒高跳	高橋 拓実 東北大	4m80 ◎	杉山 翔馬 北大	4m40	北園 和也 北大	4m00	工藤 航平 東北大	3m60				
走幅跳	鈴木 久崇 北大	6m89 +4.0	渡辺 典仁 北大	6m73 +3.1	佐藤 爽汰 北大	6m71 +0.3	今泉 裕真 東北大	6m37 +2.2	大塚 祐貴 東北大	6m24 +2.7	佐藤 勝成 東北大	5m47 +1.0
三段跳	須藤 海東 北大	13m90 +1.2	下田 和樹 北大	13m88 +2.0	北園 和也 北大	13m55 +6.0	今泉 裕真 東北大	13m49 +1.6	藤井 佳祐 東北大	13m44 +1.4	小堀 裕輝 北大	13m11 +1.9
砲丸投	赤坂 健太郎 北大	11m83	大塚 一途 東北大	10m88	岩田 拓也 北大	10m36	酒井 義岳 北大	10m15	佐藤 雄也 東北大	9m64	箕輪 純尚 東北大	9m12
円盤投	吉田 遼 北大	32m69	岩田 拓也 北大	32m30	赤坂 健太郎 北大	32m17	須藤 海 東北大	30m26	大塚 一途 東北大	29m99	佐藤 雄也 東北大	25m80
ハンマー投	酒井 利晃 東北大	34m48	野尻 英志 東北大	33m07	稲村 勇雅 北大	32m74	岩田 拓也 北大	32m62	黒壁 大貴 北大	32m08	箕輪 純尚 東北大	27m79
やり投	北園 和也 北大	52m96	黒壁 大貴 北大	50m56	工藤 航平 東北大	47m07	岩田 拓也 北大	45m50	佐藤 文哉 東北大	36m55	木曾 真吾 東北大	32m03

・女子

種目	1位		2位		3位		4位		5位		6位	
100m -1.5	戸井 文子 北大	13"37	一瀬 輪子 北大	13"42	吉村 梢 東北大	13"69	内田 志歩 北大	13"79	久道 瑛未 東北大	14"23	後藤 文子 東北大	14"71
400m	一瀬 輪子 北大	1'00"10	加藤 かあら 東北大	1'00"68	吉村 梢 東北大	1'01"13	戸井 文子 北大	1'03"05	内田 志歩 北大	1'03"42	久道 瑛未 東北大	1'04"51
800m	上田 江里子 北大	2'23"57 <sup>◎</sup>	竹平 佳菜子 北大	2'26"47	宮間 志帆 東北大	2'28"15	井出 桃愛 東北大	2'28"66	古村 初音 北大	2'31"41	加藤 かあら 東北大	2'34"39
3000m	宮間 志帆 東北大	10'35"51	岡田 千裕 北大	10'44"07	竹平 佳菜子 北大	11'01"39	飯田 夏生 東北大	11'14"54	塩谷 美菜子 東北大	11'18"34	福澤 麗子 北大	11'50"40
4×100mR	北海道大 51"01 一瀬・戸井・内田・塚越		東北大学 51"86 久道・吉村・渡邊・加藤									
走高跳	中村 真璃子 東北大	1m48	渡邊 朝美 東北大	1m45	塚越 千弘 北大	1m40	一瀬 輪子 北大	1m35	内田 志歩 北大	1m35	後藤 文子 東北大	1m25
走幅跳	一瀬 輪子 北大	5m16 +3.1	渡邊 朝美 東北大	5m02 +1.0	塚越 千弘 北大	4m97 +1.5	後藤 文子 東北大	4m68 +2.6	内田 志歩 北大	4m45 +3.3	中村 真璃子 東北大	4m40 +4.5
砲丸投	塚越 千弘 北大	9m87 <sup>◎</sup>	中島 由貴 北大	9m73 <sup>◎</sup>	綿谷 咲良 北大	9m61 <sup>◎</sup>	渡邊 朝美 東北大	8m61	青木 千景 東北大	8m10	吉田 歩 東北大	6m74